

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（伊佐見小）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・保護者と学校の教育活動についての情報を共有しながら、子供たちのことを第一に考えた意見交換を行い、熟議を進めていくとともに、委員同士の信頼関係を深めていく。
- ・本年度に引き続き、CSボランティアの活動を「子供たちの成長のために必要な活動」と捉え、さらに人材確保を進めるとともに、活動内容も広げていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

学校が、目指す子供像、目指す学校像に向かってどのように取り組んでいこうとしているかについて説明を受けた後、地域・保護者・学校それぞれの観点で意見を出し合い、熟議することができた。特に、第2回・第3回の協議会では、学校評価アンケートについての結果をもとにグループに分かれて討議し、学校・子供たちの課題について多角的にあり出したり、改善策について提案をしたりすることで熟議が深まった。今後は、テーマを絞った上で時間を十分に取、さらに深い熟議を行っていきたい。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

本年度は、具体的な決定はなかったもののPTA、学校運営協議会の連携の在り方について話したり、意見を述べ合ったりすることを通して、委員・保護者・地域・学校が、子供たち、子供たちを取り巻く環境をよりよくしたいという共通した思いをもっていることを委員全員で改めて認識することができた。学校支援活動については、コーディネーターの力により、保護者、地域ボランティアが多くの場合に参加してくださり、教育活動の充実につなげることができている。今後は、地域の持つ様々な資源を掘り起こし、学校側のニーズを満たすとともに協議会としても教育活動の充実に向けての新たな提案ができるようにしていきたい。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

学校運営協議会について理解を深めるには、多くの人に「知ってもらう」ことが大切だと考え、ボランティア募集のチラシを店頭に掲げたり、所属する同好会等において話題提供したりして、それぞれの立場で情報発信に努めた。学校と協力してさくら連絡網を活用することで、昨年度に比べ、各委員が意識して情報発信をしているが、地域への情報発信が少なく、ボランティアに参加・協力する人も限られてきている。「CSだより」に協力要請を加えるなど工夫をしていきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・学校運営の基本方針に沿って、子供のことを第一に考えた意見交換を行い、熟議を進めていくとともに、保護者や地域を巻き込んだ教育活動にしていく方法を考えていく。
- ・CSボランティアの活動を「子供たちの成長のために必要な活動」と捉え、引き続き人材確保を進めるとともに、活動内容を広げていく。